



# 石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山田 美鈴

令和7年2月7日

第10号

## 日本の学校教育（特別活動）の重要性

校長 山田 美鈴

「小学生～それは小さな社会～」という映画が昨年12月に公開され、話題となりました。この映画から生まれた短編版「Instruments of Beating Heart」は、第97回アメリカアカデミー賞（2025年）の短編ドキュメンタリー部門にノミネートされています。私自身日本の公教育に長年携わる者として気になる映画でしたので、新年早々観に行きました。

この映画監督である「山崎エマ」さんはイギリス人の父と日本人の母に育てられ、日本の公立小学校卒業後、中高はインターナショナルスクールに通いアメリカの大学に進学した方です。日本という国を海外から客観視し、規律や秩序が保たれているのは、まさに日本の学校教育によるものだという認識から、ドキュメンタリー映画の製作を決意されました。電車の運行が秒単位で管理され、それが当たり前になっていること、東京のような巨大都市の隅々まで清掃が行き届いていること、落とし物や忘れ物は多くの場合警察に届けられ持ち主に返ること等々……。この規律と秩序、集団生活における協調性はどこから来るのか？という視点をもって、実際公立小学校で行っている教室清掃、給食の配膳、日直制度、また運動会や音楽発表会などをリアルに映像で表しています。私自身教師を目指したのは、学校教育が教科指導のみならず人間形成に大きく関与し、子どもの人生に様々な影響を及ぼすことができるというやりがいを感じたからです。

かつて「おもてなし」という言葉が流行語大賞に選ばれました。2020年東京オリンピック招致のためのキーワードになったことがきっかけでした。この「おもてなし精神」も日本の学校教育が端を発していると言っても過言ではないでしょう。

こういった全人的な教育を重視している日本型学校教育のすばらしさを再認識する人がいる一方、同調圧力を強いる傾向を恐れる人がいることも事実です。「令和の日本型学校教育」がどうあるべきかは、この映画を通して改めて考えていく必要があるのかもしれません。

海外から称賛されている日本の学校教育ではあっても、実際日本の子どもたちの幸福度は残念ながら諸外国に比べてあまり高いとは言えません。

これからの国際社会に生きていく日本の子どもたちが、集団としての理想とする振る舞いとともにも個別最適な学びの尊重といった両面を体得し幸福感を感じられるようになるために、何が大切か？私は学校教育の中の特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）にあると感じています。

学習指導要領「特別活動」の目標では

- (1) 多様な他者と協議する様々な集団活動の意義や活動を行うことについて理解し行動する
- (2) 人間関係の課題を見出し解決するために話し合い、合意形成を図り意思決定する
- (3) 自主的実践的な集団活動を通して生き方についての考えを深め自己実現を図る

とあります。受験を控えた3年生の面接練習では、中学校のよき思い出として体育祭や合唱コンクールを通して集団の一員としてのやりがいを感じた、助け合える仲間がいるすばらしさを感じたなど、集団の中での様々な経験を通して、自分と異なる意見を尊重しつつ合意形成を図りながら納得解や最適解を見出せたことが、自己の成長につながったと語っていました。来年度も本校の特別活動に重点を置き、学校の発展とともに生徒一人一人の成長を目指してまいります。